

事 務 連 絡  
令和 7 年 3 月 21 日

各保健所設置市長 様

兵 庫 県 保 健 医 療 部  
疾病対策課感染症対策官

**滋賀県における麻しん患者の発生に伴う注意喚起について**

令和 7 年 3 月 19 日に滋賀県が別添のとおり麻しん患者の発生について公表を行いました。当該患者からの感染による新たな患者発生の可能性がありますので、情報共有します。

なお、別添写しのとおり、関係団体あて通知していること申し添えます。

**【担当】**

兵庫県保健医療部疾病対策課

感染症対策推進班 田口

TEL : 078-341-7711 (内 3295)

MAIL : shippeitaisaku@pref.hyogo.lg.jp



## 資料提供

(県 政)



提供年月日：令和7年(2025年)3月19日  
部 局 名：健康医療福祉部  
所 属 名：健康危機管理課  
係 名：感染症係  
担 当 者 名：井上、田上、鈴木  
連絡先(内線)：077-528-3632 (3632)

### 麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起について

2025年3月15日(土曜日)、滋賀県内に所在する医療機関から草津保健所へ麻しんの発生届（検査診断例）が提出され、滋賀県で遺伝子検査を実施したところ、3月17日(月曜日)に麻しんウイルス遺伝子が陽性であることが判明しました。

患者の疫学調査を実施したところ、他者に感染させるおそれがある時期に下記の航空便の利用があることが分かりました。3月17日より当該航空機の搭乗者の把握を試みているところですが、現時点では全員の把握はできていません。そのため、麻しんの平均潜伏期間である10-14日が経過する前に、急ぎ、滋賀県内外の当該航空機を利用した方に対して情報提供および注意喚起を行うものです。

#### 1. 患者概要

○20代 男性 麻しん予防接種歴有り（2回）

○主な症状 発熱・発疹・結膜充血

#### 2. 患者が利用した旅客機

3月10日：グレーターバイ航空

- ・ バンコク → 香港 HB298便（3:05発→7:00着）
- ・ 香港 → 関西国際空港 HB340便（8:25発→13:05着）

#### 3. 上記旅客機に乗られた方に対して

- ・ 麻しんは空気感染するため、当該航空機を利用した全ての方が健康観察の対象となります。
- ・ 発病までの最大潜伏期間を考慮して、令和7年3月31日まで健康観察が必要です。
- ・ 発熱、発疹等の症状から、「麻しん」が疑われる場合は、事前に医療機関に「麻しんかもしれない」ことを連絡の上、必ずマスクを着用し、速やかに受診してください。また、受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。心配なことなどがありましたら、最寄りの保健所に御連絡ください。

#### 4. 当該患者の行動と接触者について

当該患者は、入国後に空港から本県へ自家用車を利用して移動しています。また、本県への移動当日の受診および再受診の際も自家用車を利用しております。

医療機関の受診以外に外出はなく、滋賀県内外における不特定多数との接触は認めません。

#### 5. 参考

(1) 全国および本県における麻しんの発生状況

| 年次  | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 | 2025 年           |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------|
| 全国  | 279    | 744    | 10     | 6      | 6      | 28     | 45     | 22※ <sup>1</sup> |
| 滋賀県 | 1      | 9      | 1      | 1      | 0      | 0      | 1      | 1※ <sup>2</sup>  |

※1 2025 年 3 月 9 日時点 国立感染症研究所 速報値

※2 2025 年 3 月 19 日時点 暫定値

本県における発生状況については、県衛生科学センターの感染症情報センターのホームページに掲載しています。

(URL : <https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/>)

## (2) 世界の状況

中東や東南アジアなどで流行しているほか、世界保健機関（WHO）により、昨年 1 年間の欧州・中央アジアの感染者数は 1997 年以降で最多になったと発表しています。

<https://www.who.int/europe/news/item/13-03-2025-european-region-reports-highest-number-of-measles-cases-in-more-than-25-years---unicef--who-europe>

## 6. 麻疹（はしか）について

### ○主な症状

38℃前後の発熱が 2～4 日間続き、咳や鼻水といった風邪のような症状が出ます。その後、高熱（多くは 39℃以上）が出るとともに、発疹が出現します。その後、多くは 7～10 日で症状が回復します。

肺炎や中耳炎を合併することがあり、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎が発生すると言われています。

### ○感染経路

空気感染※、飛沫感染、接触感染によりヒトからヒトに感染が伝播します。その感染力は非常に強いと言われており、感染する期間は、発症の 1 日前から解熱後 3 日頃までとされています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

※麻疹ウイルスの空気中での生存期間は 2 時間以下と言われています。

### ○潜伏期間 約 10 日～14 日間

### ○治療法 特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

### ○予防方法

・麻疹は感染力が強く、手洗い、マスクのみで予防はできないため、麻疹の予防接種が最も有効です。海外渡航を計画している方、麻疹のワクチンを 2 回接種していない方等は、予防接種を検討することをお勧めします。

・麻疹患者と接触した場合、接触後 72 時間以内であれば緊急ワクチン接種により発病を予防できる可能性があります。

※本情報提供は、感染症予防啓発のために行うものですので、報道機関各位におかれましては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護等の観点から、提供資料の範囲内での報道に、格段の御配慮をお願いします。